

<第60回調査>

2014年05月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年05月13日(火)13:00～2014年05月20日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は859件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

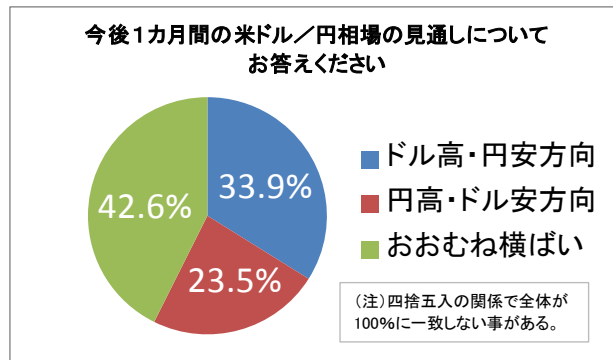
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第60回調査結果略報：ユーロ弱気の予想が増える】

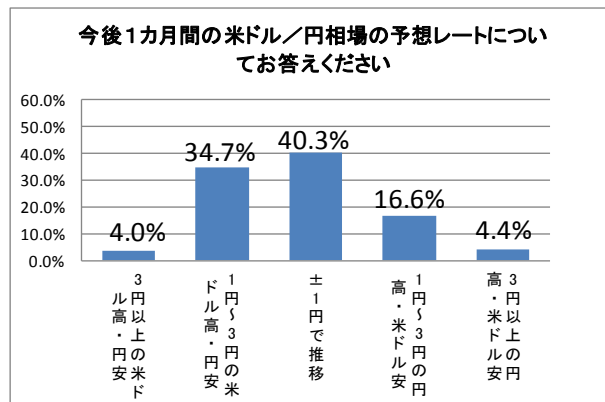
問1：今後1か月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が33.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は23.5%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+10.4%ポイントとなり、11か月連続でプラスを維持したものの、プラス幅は5か月連続で縮小した。内訳をみると、最も回答割合を集めたのは「おおむね横ばい」で、前月の34.3%から42.6%へ大きく伸びた。一方、「円高・ドル安方向(同：24.6%)」はわずかな減少となったのに対し、「ドル高・円安方向(前月：41.1%)」が大幅に減少した。調査期間中の米ドル/円相場は102.30円台から101.10円台まで下落するなど軟調に推移。全般的に米景気の復調ぶりなどから先高感自体は維持されており、「円高・ドル安方向」に転じるほどではないものの、日経平均株価が軟調で米長期金利低下が著しい中で、目先の反発の可能性に自信が持てず、こうした結果になったと推察する。※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1か月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1か月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「±1円で推移」と答えた割合が40.3%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安」が34.7%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は16.6%、「3円以上の円高・米ドル安」は4.4%、「3円以上の米ドル高・円安」は4.0%となった。ヒストグラムは中央を頂点として米ドル高・円安サイドが厚い形状をしている。なお「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」の合計で7割以上の回答を集めた点と、調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)から推測されるFX投資家の今後1か月の予想レンジは、およそ100.60円～102.30円となる。年初来安値(2/4、100.754円)の更新が視野に入ってきたと言える。

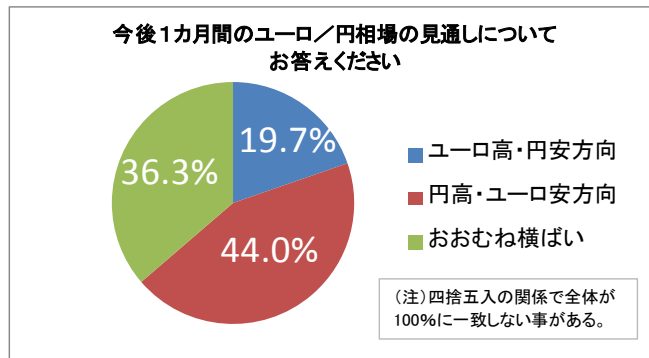


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

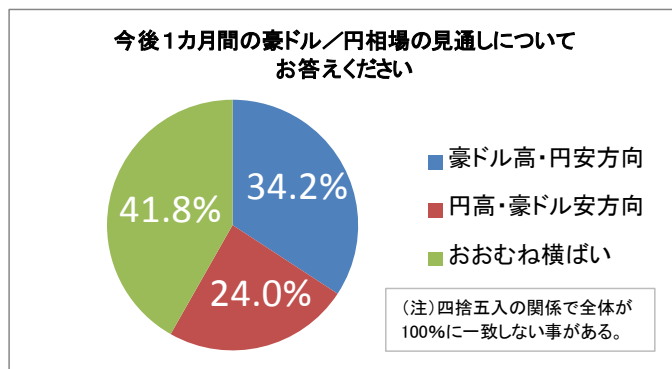
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が19.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が44.0%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲24.3%ポイントとなり、2カ月連続のマイナスとなった。調査期間中のユーロ/円相場は141円付近から138円台半ばまで大幅に下落した。日経平均株価の下落を受けた円買いの上、欧州中銀(ECB)による追加緩和観測がユーロ売りを促進する格好で、これらを理由にFX投資家の見通しがユーロ弱気・円強気予想に大きく傾いたものとする。
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が34.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は24.0%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+10.2%ポイントと前回(+5.9%ポイント)からプラス幅を2ケタに拡大した。調査期間中の豪ドル/円相場は一時96円台に乗せるも、93円台半ばまで大幅に下落。豪州格下げの可能性や、豪中銀の金利据え置きが長期化するとの観測などを受けた豪ドル売りが入った他、日経平均株価の下落を受けての円高などによって押し下げられたようだ。それでも、豪ドル高・円安方向の割合がほとんど変わらなかった一方、「円高・豪ドル安方向」を見ていた層が「おおむね横ばい」にシフトしており、実際の相場の流れよりもFX投資家は豪ドルを強気で見ている様子が見受けられる。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

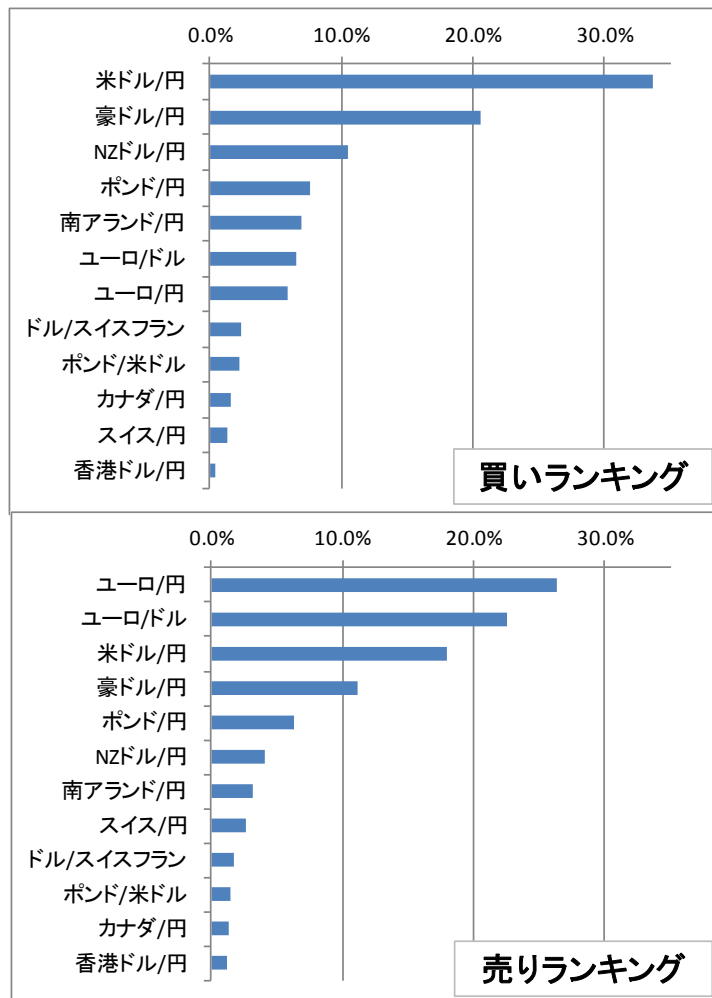


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(33.6%)、2位豪ドル/円(20.6%)、3位NZドル/円(10.5%)、4位ポンド/円(7.7%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位はユーロ/円(26.3%)、2位がユーロ/ドル(22.6%)、3位米ドル/円(17.9%)、4位豪ドル/円(11.2%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が連続1位の記録を19カ月に伸ばした。前月4位だった南アランド/円と、先月5位だったポンド/円が入れ替わった程度で、大きな変化は見られなかった。ボラティリティが低い相場が続いていた上、全般的に株安に対する警戒感なども拡がっており、積極的に何かを買う、というムードは広がらなかったようだ。一方の「売り」で注目の通貨ペアについては、ランキング上位4通貨ペアは不変であったが、トップ2のユーロ/円、ユーロ/ドルともに、前月(それぞれ、21.0%、19.6%)より回答割合を伸ばした。欧州中銀(ECB)の6月緩和に対する期待が強まる中で実際にユーロが下落したこともあり、引き続きユーロ売りに妙味を見ているFX投資家は一定数存在するようだ。

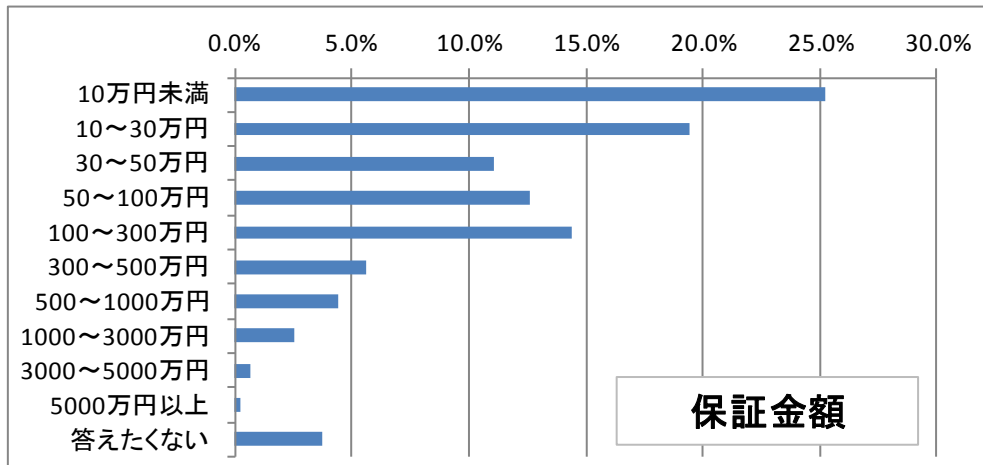


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

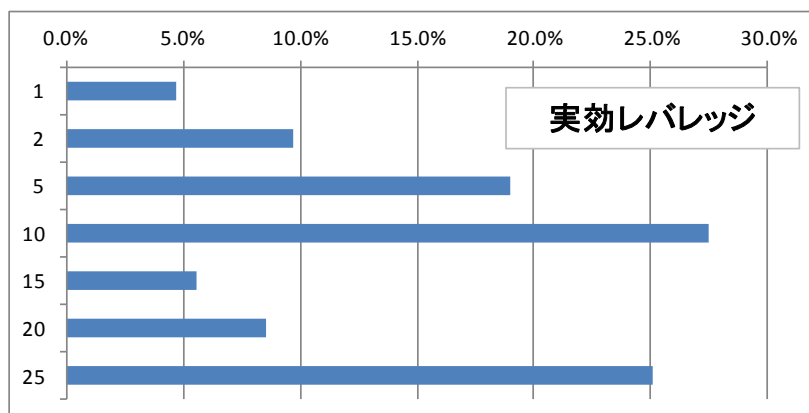
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.3%と最も多く、以下「10～30万円(19.4%)」、「100～300万円(14.4%)」、「50～100万円(12.6%)」、「30～50万円(11.1%)」と続いた。ランキングも回答割合も前月とほとんど変わっておらず、ボラティリティが低い中でFX投資家があまり保証金額を変化させなかった様子が見受けられる。ただ、「300万円以上」の合算割合が、先月に続いて僅かながらも増加(13.0%から13.7%へ)しており、保証金の増加傾向が出てきている様子が窺える。低ボラティリティの中、次のトレンド発生前に保証金額を増やしておこうとする動きが出ている可能性もありそうだ。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が27.5%と最も多く、「25倍」が25.1%、「5倍」が19.0%と続き、以下、「2倍」が9.7%、「20倍」が8.5%となった。今回も「10倍」と「25倍」が双璧をなしており、この2つだけで回答割合の5割を超える。また、3番手の「5倍」を含めると回答割合は7割超に上る。FX取引の魅力のひとつであるレバレッジを最大限に活用する層と、ややレバレッジを抑えて取引を行う層に大別できるようだ。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家の実効レバレッジの平均は12.7倍であった。

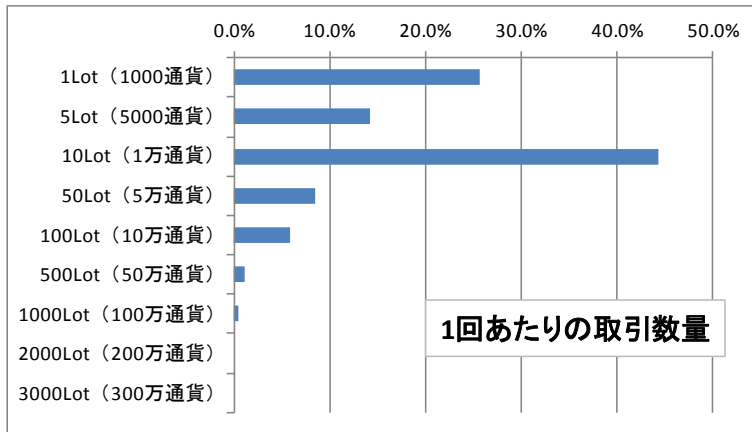


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

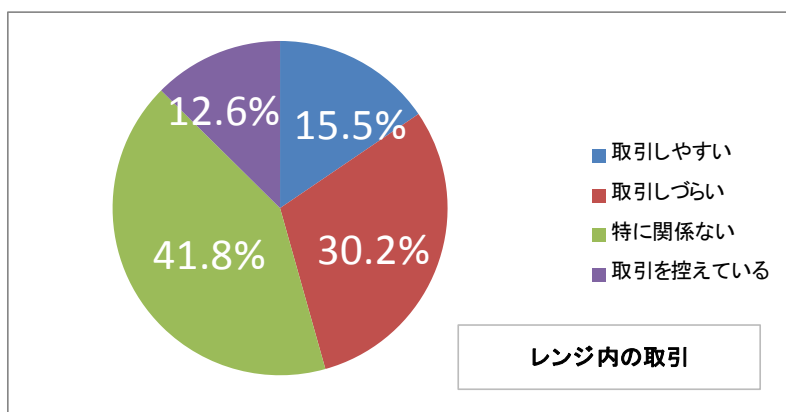
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が44.2%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が25.6%、「5Lot (5000通貨)」が14.2%、「50Lot (5万通貨)」が8.5%、「100Lot (10万通貨)」が5.8%と続いた。この質問を始めて半年を超えるが、回答割合に特段の変化は見られない。この半年間のドル/円相場は、97円台から105円台へ上昇した後、一時101円を割り込むなど小さくない変動を見せたが、FX投資家の注文数量は相場動向には左右されにくいようだ。



問9: 2014年2月よりドル/円相場は約3円の幅のレンジ内を推移していますが、取引への影響は？

今月の特別質問項目として「米2014年2月よりドル/円相場は約3円の幅のレンジ内を推移していますが、取引への影響は？」と尋ねたところ、「特に関係ない」と答えた割合が41.8%と最も多く、次に「取引しづらい(30.2%)」、「取引しやすい(15.5%)」「取引を控えている(12.6%)と続いた。FX投資家は「逆張り」を選好する層が多いと言われている。レンジ内の動きであれば、3円程度の値幅があれば、方向感に乏しくても取引可能と見ている向きが多いようだ。ただ、「取引しづらい」も比較的多い。FX投資家層としては多数派ではないが、順張り派にとっては方向感に欠ける現在の相場は、取引しづらいだろう。

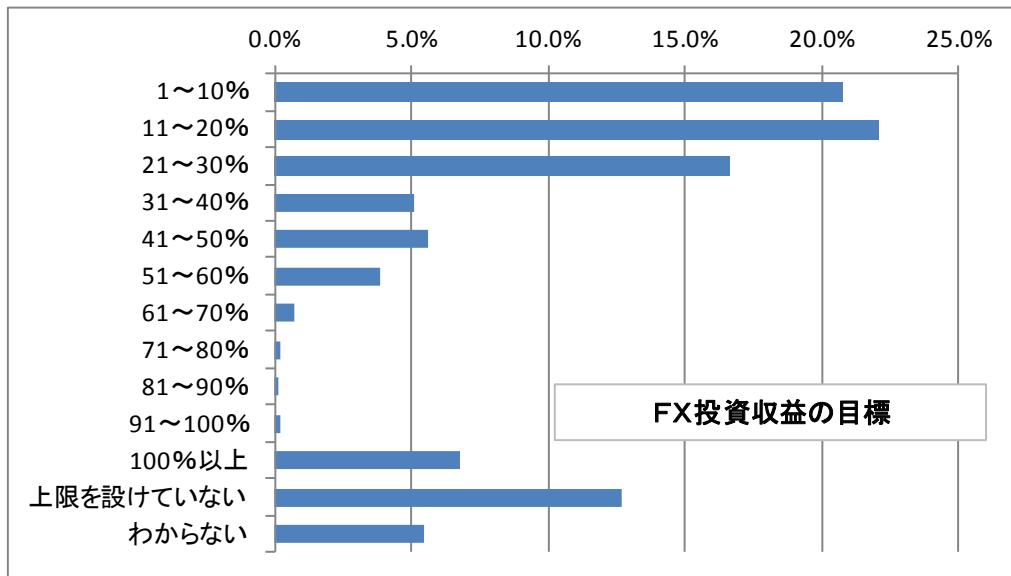


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: 一年間のFX投資について、投資資金の何%を収益目標としていますか。
(例: 100万円の投資資金を110万円にしたい場合10%)

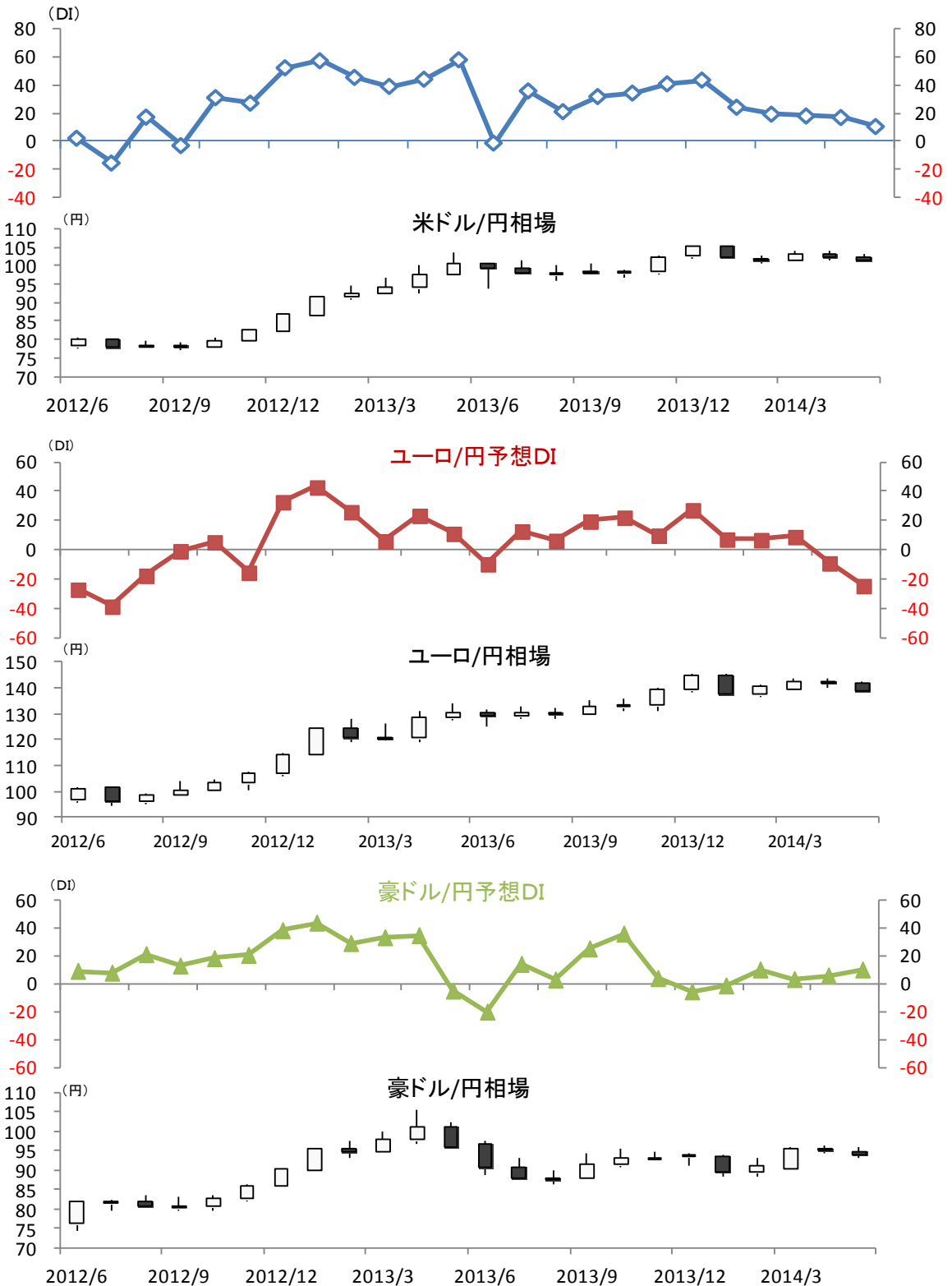
今月のもうひとつの特別質問項目として「一年間のFX投資について、投資資金の何%を収益目標としていますか。」と尋ねたところ、「11～20%」が22.0%と最も多く、「1～10% (20.7%)」、「21～30% (16.5%)」と続いた。この3つで全体の6割近くを占めており、それ以上の水準の回答割合は激減した。この「30%までのところに回答が集中し、それ以上の水準はかなり低下」という結果からは、「できるだけ大きく利益を取りたいが、それでも『ぎりぎり現実的と思われるライン』を模索しようとしているようだ。注目すべきは、選択肢の中では「低めの目標」に回答割合が集まったその一方で、「100%以上」を目標とする層が6.8%にも達している点だ。比較的堅実な取引を志向する層が多数派を占める中でも、積極的にリスクをとって100%以上のリターンを狙おうとする層も一定割合でいる模様。なお、「上限を設けていない」という層も12.7%に達した。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第60回目となりました。調査開始から丸5年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com